

令和7年4月 区長記者会見【テキスト版】

高際区長

今年度（令和7年度）初めての定例記者会見となります。今年度もできるだけ多くの皆さまに直接ご説明させていただく機会を設けたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1つ目は、基本構想・基本計画が完成したというご報告になります。この基本構想は、豊島区政の最高指針です。豊島区政の根幹になるものをミニブックとして配付をさせていただいており、22年ぶりに策定しました。10年後の豊島区の将来像をどうしていくかというものを描いたものであります。そして、10年後に向けて、これから5年間何を行うべきかをまとめた基本計画を合わせて策定いたしました。

また、予算ミニブックを初めて作りました。多くの時間をかけ、皆さまの声を聞き、分かりやすいものを作ろうとするものの、かなりのボリュームになってしまいました。区民の皆さま、企業等々関係者の皆さまに、もっとわかって欲しいなという思いが日頃からございました。今回は1年3ヶ月かけてたくさんの皆さまと一緒に作り上げた基本構想・基本計画ですので、作ったものを一緒に共有して、一緒に考えて、また更なる一步に進めていきたいという思いがありまして、このミニブックを作りました。

先日、2日間で若手職員中心に300名に集ってもらい、この基本構想・基本計画の思い、ここに込められた一言一言に、どういう思いが込められているかなど、各部署でしっかり勉強してもらう機会として研修を行いました。これから、様々な団体、町会、区民の皆さまにも、このミニブックを持って、管理職から若手職員までが営業マン・営業ウーマンとなってご説明にまいりたいと思っております。

豊島区基本構想・基本計画は、3つの理念と7つのまちづくりの方向性というのをお示ししました。これもかねてよりご説明をさせていただいておりますので、ミニブックをご覧ください、レビューをさせていただきたいと思います。

3つの理念が豊島区の大根幹となります。「誰もがいつでも主役」、「みんながつながる」、そして「出会いと笑顔が咲きほこる、憧れのまち」にしていこうというこの3つ

を根っこに置いて、新たな出発をいたします。

「誰もがいつでも主役」ですが、人権・平和、そして特に今回私は女性区長ということもありますが、ジェンダーの中でも特にすべての女性のエンパワーメントというのを豊島区として初めて明記をしました。元気な女性はもっと元気に活躍してもらいたいと思いますし、色々な課題を抱えた女性が、様々な場所でその人としての力を発揮して活躍してほしいという思いを込めまして、女性のエンパワーメントを初めて明記しました。また、外国人の区民も増えておりますので、多様性の理解や多文化共生についても記載をしております。

そして「みんながつながる」、つながるという言葉が豊島区はキーワードにしております。もちろん区民とつながりたいと思いますし、それも色々な区民とつながっていききたいと思いますし、企業・団体・大学など豊島区に住んでいる人、働きに来ている人、学びに来ている人、活躍をされている方々とつながっていく。参画と共創、ともに創る共創を目指していこうということを示しております。

そして「出会いと笑顔が咲きほこる、憧れのまち」というのは、笑顔については、豊島区は子ども会議を実施しております。子どもたちに「10年後どのようなまちになってほしいか」と質問すると、「みんなが笑顔になれるまちにしたい」という提案がありました。さらに、10代から80代の方までたくさんの方にご参加いただいたワークショップで、「どんなまちにしたいですか」と尋ねると、「住んでいる人だけでなく、周りから憧れられる誇りを持てるまちにしたい」というご提案がありました。子どもと大人両方からのキーワードをそのままいただきまして、3つ目の理念を作っております。その下に、7つのまちづくりの方向性をお示ししております。

また、ミニブックの最後にも、お声を聞かせくださいという言葉の繰り返し載せました。基本構想・基本計画は完成しましたが、これで終わりということではなく、「まだまだ足りないことがあればどんどんお寄せください」という意味と、「皆さまの声でこれからどんどん変えていきます」といった思いも込めまして最後にこうしたメッセージを載せております。

2つ目のテーマは、「事業提案制度」であります。

事業提案制度は、私が区長に就任して以降2回実施いたしました。昨年度の二回目は「デジタル」と「防災」というテーマで募集した結果、78件ご提案をいただき、

1,521票の区民投票を頂きました。上位6つの提案を5つの事業に再編成し、今年度の予算に反映させております。今年の3月にご提案をいただいた方々全員をお呼びいたしまして、感謝状を差し上げますとともに、この提案に込めた思いなどを伺ったところであります。

そして、今年度も事業提案制度を実施いたします。基本構想・基本計画ができましたので、その思いを込め、1つ目は「多様性の尊重・多文化共生」を挙げました。様々な環境の方がたくさんおられますが、どんな方もその人らしく活躍できるまち、そのための「多様性の尊重・多文化共生」を掲げました。2つ目は、「こころと体の健康づくり」を挙げ、この2つのテーマで今年度は事業提案制度を募集いたします。

ねらいにつきましては、1つ目は申し上げたような「多様性」について、2つ目の「こころと体の健康づくり」は、年代・性別によりそれぞれ健康課題というのは異なると思いますが、それに加え、コロナ禍を経て、様々なライフスタイルの変化があり、精神の不調とか疾患を抱える方も増えています。そうした中で、皆さまが健康であるためにはどうしたらいいかというのはこれから大きな課題になっていきます。さらに、令和8年5月予定しておりますが、新しい保健所ができます。こうしたタイミングということもあり、「こころと体の健康づくり」を2つ目のテーマとして事業提案制度を行います。

若い世代の健康意識をどのように高めるか、こころの健康への理解を促進するにはどうしたら良いかなど、様々な観点からのご提案を募集したいと思います。スケジュールに関しましては、早速5月1日に募集を開始いたしまして、8月から区民投票。区民投票の結果を踏まえ、来年度の新規事業に結びつけてまいります。

本日は、それに加えて、1つ予告がございます。現在の区民による事業提案制度は、区民だけでなく、区に関わる企業・大学などからもたくさんのご提案をいただいております。この事業提案制度は、区民がこういうことを実施すると良いのではないかと区民目線のアイデアを豊島区にご提案いただいて、その思いを汲み大事にしながら、区としてやるべき事業を新規事業に入れ、実施をしております。

今年度始めようと思っておりますのは、企業からの事業提案制度であります。企業の自分たちのご経験や、業務内容などを通じ、「豊島区の子どもたち、あるいは高齢者の方たち、さまざまな方たちに貢献したい」、「こういうことをうちがやっていきたい」という企業側のご提案を受けて、豊島区としては活動に支援をしようというようなスキームであります。

これを始めようと思った理由については、現在の仕組みですと、企業からご提案をいただいても、事業の実施は豊島区が実施するため、ご提案者にお金を出して事業を実施していただくスキームになっておりません。様々な方たちから提案を受けて、区が実施する。そういうことを進めているなかで、企業の皆さまから、「もっと直接自分たちがやっていきたい」といったお声をいただきました。実際に、現在「チームとしま」という企業との連携スキームがあり、様々な企業と共に、子どもたちのためや外国人のため様々な活動をしていただいています。それをもう一步進めるべく、新たに企業からのご提案を受け、また区民投票を経て、企業の皆さまに社会貢献、また区民のための活動をしていただくことができるように進めたいと思っております。詳細については来月の会見で発表したいと思います。

次に4月から、初めて作った計画も含めて様々な計画が一斉に動いておりますのでご案内をいたします。

1つ目は、豊島区として初めて作りました、「豊島区困難女性支援基本計画」であります。昨年の4月に困難女性支援法が施行されまして、自治体が基本計画を作ることが努力義務になりましたが、豊島区としてはコロナ渦の間に「すずらんスマイルプロジェクト」という若年女性支援のプロジェクトを立ち上げており、そこでの様々な経験を活かして支援計画を作りました。

年齢や障害の有無、国籍、DV、性被害、女性の貧困や不安定就労など様々な課題があらうかと思えます。そこで、様々な課題や困難を抱えた女性をいかに支援していくかという基本計画を作りました。特徴としてはやはりすずらんの経験を活かして、若年女性支援の充実について書き込んだというのが豊島区っぽいかと思います。

2つ目に、スポーツについての計画「豊島区スポーツ推進計画」を作っております。これは令和7年からの10年間についての計画を策定し、その中でeスポーツについて初めて書いております。また、基本理念として「スポーツでみんながつながり、笑顔あふれるまち としま」を掲げております。皆さんも運動神経の良い方、悪い方いらっしゃると思いますが、スポーツ好き、得意という方のみならず、私のような運動が苦手な人も気軽に体を動かす、あるいはお家に引きこもりがちな子も、学校には行けないかもしれないけど、どこか何か体を動かすところがあれば出てきてもらえる機会を作ることや、スポーツ得意な方だけでない人たちにもできるだけ参加してもらう。それがまた居場所にもなり、人とのつながりにもなる、そうした観点でスポーツ

推進計画を策定しております。

3つ目に、「豊島区生涯学習推進ビジョン」についても策定いたしました。豊島区はこの4月に学習・スポーツ課を生涯学習・スポーツ課に改め、生涯学習を基本構想・基本計画の中でも大きな位置づけにしています。特に生涯学習と図書館を改革して進めていこうという強い思いを持っています。偏見かもしれませんが、今まで何となくのイメージとして、生涯学習といいますが、定年退職をされた方が空いた時間で何か学ぶというような人が、もしかすると多かったのかもしれない。やはり生涯学習というのは、中学生でも高校生でも、例えば「すずらんスマイルプロジェクト」が支援をしているような子たちの多くは、高校を中退し、お家にもどこにも居場所がないような子もいます。学校の勉強は面白くなかったけれども、何か別のことを学んだときに面白さを感じたり、そこで人と出会ったり、そのような居場所の面でも、また様々な発信の面でも生涯学習は極めて重要だと思っております。そうした思いも込めまして、特に「子ども・若者の学びの支援」としても生涯学習やっていこうと考えています。また、多文化理解、日本人だけではない外国人とともに学び合うような場としてもやっていこうという観点でも生涯学習ビジョンへ力を入れて策定をいたしました。

この他、環境、子ども・若者、教育、こちらについても新しい計画がスタートしております。ミニブックや概要版を作り、さらに子ども・若者に関しては、子ども版を作るなど、分かりやすいものを作っておりますので、ぜひご一読いただいて取材いただければと思います。

4つ目に、「教育」についてご紹介をしたいと思います。

教育ビジョンもできまして、その前には教育大綱を作りまして、教育に非常に力を入れております。そうした中で、教育長が変わりました。新しく清野 正氏が4月1日付で就任しています。元豊島区教育委員会の指導課長で、豊島区に大変詳しい方です。さらに、東京都教育庁指導部で国際教育推進担当課長も担当され、直近では渋谷区立の校長をされていた方であります。

また、教育委員会は教育委員の枠を増やし、弁護士の松宮 徹郎氏に就任いただいております。学校現場では、様々な法的な観点から、ご助言を必要とする場面が多くあります。そこで、なんとしても弁護士の、法の専門家に入ってもらいたいという思いがありました。現在、スクールロイヤーが現場にいますが、中枢の教育委員会にも法

律の専門家を設置したいと思い、条例を作り、教育委員の枠を一つ増やし、松宮さんをお迎えしております。松宮さん自身は弁護士ですが、かつて学校の先生をしていたり、学習支援のボランティアをしたり、子どもへの支援に熱い思いを持っていらっしゃる方をお招きしました。

そしてもう1人紹介させていただくのが、黒沢 正明氏であります。黒沢氏は全国初の不登校対策スーパーバイザーとしてお招きをしました。これまで、多摩地区初の民間公募による学びの多様化学校という八王子市立高尾山学園、不登校の子どもたちへの支援を行う学びの多様化学校の校長を12年間されてきました。多摩地区での民間公募で学びの多様化学校の校長になったのは、この方が初めてであります。その他、不登校の支援をしっかりと行っていくための文部科学省学びの多様化マイスターというのもご就任をされております。不登校対策のエキスパートであります。

本日お配りした予算ミニブックについて、教育は様々な課題がございますが、今年度は不登校対策を徹底してやっていこうということで体制強化しておりますので、ぜひ黒沢先生にさまざまな場面でお力をいただきたいと思います。各校を回ったりして、不登校の支援状況、子どもたちへの対応についても、黒沢先生からアドバイスいただいたり、また保護者の方へのセミナーを行ったりさまざまな場面で活躍を期待しております。

そして、学校支援担当課長というポストを新設しました。これまでも、学校と連携をして進めていきましたが、学校現場で何に困っているか、どういうことを区が支援すべきなのかというつなぎをしっかりとしていきたいということで、学校支援担当課長のポストも新設し、教育現場の強化を図ってまいりたいと思います。

学校現場では「小1の壁」対策を進めております。去年の3学期に2校でやりました。朝早く来た小学校一年生を預かる。それから、夜暗くて怖いという子どもたちをお送りするというのをやっていましたが、4月から全校22の小学校でスタートをしました。

おはようクラスといいます。7時45分から登校の時間まで、学校の用務員さんが一緒に過ごしてくれています。そして、4月10日時点で、全校で168人がエントリーをしております。一番多い学校では、14人の子どもたちが朝早く来て、用務員さんと一緒に過ごしているというような状況でございます。

そして、帰り。暗くなってしまってこわいところを子どもたちだけで帰るというこ

とで、子どもたちも親御さんも心配だったのが、昨年度見送りをやりまして、大変好評でした。それに加えて、4月、小学校一年生、登校になかなか慣れないという子、親御さんが働いてらっしゃる子が、子どもスキップにいます。

18時過ぎたら親御さんが迎えに来ますが、その前は子どもたちで一緒に帰ったりしています。16時から18時になってしまう子たちは、4月は学校に慣れるまでおかえりサポートやることにいたしまして今実施中です。シルバー人材センターの皆さんと一緒に帰ってくれているところであります。

そして次が、4月は通学に慣れないから今の「おかえりサポート」をやっているのですが、改めて考えたときに、今報道でもよくされていますが、魔の7歳と言うように、区内でも18歳までの全年齢を通して7歳が一番交通事故が多いということです。豊島区では幸い、過去3年間でも事故数が非常に少ないのですが、全国的にも区内でも多く、特に4月から6月が多いです。

4月は慣れないという理由もあるかもしれませんが、ゴールデンウィーク明けで少し慣れてきたときの事故は多いということがありまして、ここを何とかしたい。

なぜならば、この基本構想・基本計画の一番目の柱に「安心安全」を打ち立てております。そのため、今まで幸い豊島区の子たちが交通事故あっていませんが、いつあうか分かりません。

そのため、ここはやっぱり4月から6月を強化月間にしようということで、今年度、関係機関が一体となって守っていく、というようなメッセージを、小学校全部にメッセージとして発信しました。区長、教育長、小学校の校長会の会長、三者連名でこういうふうやっていこうというメッセージを発信したところであります。

区としては区内77か所に学童安全通学指導員という方が立っていただいております。また、先ほどの「おかえりサポート」、慣れない4月はシルバー人材センターの方が一定のところまで送っていきます。また、3か月、豊島区の青色のパトカーが、色々なところをぐるぐる回って治安を守るべくやっておりますが、下校でここ危ないぞというところを中心に3か月青パトが巡回をします。

また、小学校においても、安全点検を改めて4月中に行う。また、警察と一緒に1年生の交通安全教室を5月末までに全校でやる。また、コミュニティ・スクールとい

う地域の方も入った学校の応援団みたいなものがあります。このコミュニティ・スクールで地域を挙げた交通安全の機運醸成をしていく。さらに、保護者や区民にも呼びかけをしていく。小さいお子さんがいらっしゃる記者の方もおられます。まずは、区も学校もやりますが、保護者の方たちに「保護者が子どもと一緒に行く道、帰る道どこが危ないかをもう1回点検をしてほしい」といった呼びかけや、ドライバーの皆さんに「自分たちが見ているよりも、子どもの視野はぐっと狭いので気をつけてください」というような発信を、この4月から6月の安全を守る強化月間の中で集中してやっていきたいと思っております。

次です。ゴールデンウィークが始まりますが、今お米が値上がりしているということもありまして、ひとり親家庭に対しまして、29日、30日に庁舎の1階で食料・食品のご支援をいたします。

ひとり親の皆さまに昨日、案内チラシを対象世帯全世帯にお送りをしました。ひとり親のおうちの方でチラシを持ってきていただいた方に、アルファ化米をはじめ、さまざまな食品を配布したいと思っております。ご予約不要でございます。

たくさんの企業さんからもご協力をいただきました。芥川製菓さんはチョコレート5,000個24キロ出していただき、その他サンシャインシティさんをはじめ、企業それから社会福祉協議会などからもお持ちの備蓄品などをご提供いただきまして、応援をしたいと思っております。

豊島区はこれまでもコロナ禍から、ひとり親のご家庭、世帯年収が低い家が多いひとり親の家庭に令和3年度、4年度、5年度と同じようなご支援申し上げております。今回も実施をし、来た方にはいろいろな相談窓口のご案内なども併せてしていきたいと思っております。

次です。もう暑いですね。区は今週の月曜日に熱中症対策本部を立ち上げたところでもあります。また、ちょっと涼しくなって、すぐ暑くなってしまうと思いますが、熱中症の警戒情報発表時にどう対応するか、クーリングシェルターの指定などもしております。

しろくまくんのマークになっていますけども、「としま涼みどころ」というものを、

今日から区民ひろばを含む全 39 か所クーリングシェルターとして指定し、昨年もお協力いただきました薬局を「涼みどころ薬局」とし、お薬をもらいに行かなくても入って良いということで、薬剤師会の皆さまにご協力いただきました。この「としま涼みどころ薬局」が本日からスタートしております。

そして、暑さを防ぐ一環でもあります、イケ・サンパークで子どもたちの大好きな「水遊びエリア」をスタートいたします。今月 26 日から、噴水の出る「水遊びエリア」を開放いたします。ゴールデンウィークの期間中は、毎日。ゴールデンウィークから明けてからはしばらくの間は土日。6 月下旬から 9 月の中旬までは毎日水が出ますので、ぜひ多くの皆さんにお楽しみいただければと思います。

昨年、区民提案を受けて、スターテントという大きなテントを出しました。4 月 28 日から、ゴールデンウィーク中も暑いということでスターテントもイケ・サンパーク登場いたします。

次です。おたふく風邪ワクチン 2 回目接種の費用助成を始めます。

今任意接種になっていますが、これまで 1 歳から 3 歳の子どもに 1 回目の接種を全額助成しておりました。しかし、おたふく風邪ワクチンは 2 回あります。そのため、接種 2 回目の助成を始めます。接種費用の半額程度の 3,000 円を助成。3 月末に対象者には予診票をお送りしていますのでご利用ください。

事業のご報告の最後は、「まちづくり」であります。

南池袋二丁目 28 番街区というのがどこかといいますと、南池袋公園はわかりますでしょうか。池袋駅から豊島区役所に来ていただくときに、グリーン大通りをまっすぐ来ていただくとありますが、そこを右に行くと南池袋公園、芝生の綺麗な南池袋公園があります。その間にあるところが都市計画地です。地元の再開発準備組合より提出された素案を受け、地区計画の都市計画原案を作成しました。完成イメージ図は資料の右側でございます。

地上 10 階、地下 1 階。3 階までが店舗で、4 階からはオフィスというような建物ができる予定であります。詳しくは、本日担当の課長が来ておりますので、ご関心ある方はご取材をいただければと思います。

整備はこうした三つの基本方針に基づいて行います。簡単に申し上げますが、複数の敷地を統合して建物を更新する。そして、今でも古いビルがいくつかありますが、そこを一体として開発をする。南池袋公園と隣なものですから、そこと一体となって回遊性ある空間にしていこうということで、この建物の中にも広場を作っていただけるということでもあります。また詳しくはご覧いただきまして、このあと担当課長の方にご取材をいただければと思います。

予定だけ申し上げたいと思います。ご提案を基に都市計画原案を区が作成し、5月14日まで意見募集をしている利害関係の方などのご意見などを踏まえまして、都市計画案というのを作成し、6月下旬にまた区民の皆さまに広く公表して意見を求めてまいります。令和13年度、2031年度の完成を目指して動き出したというところでございます。

この後は、イベントのご紹介をします。

一つ目は、「IKEBUKURO LIVING LOOP」であります。グリーン大通りが一大マルシェ・エンタメ広場となっております。音楽もあったり、踊りもあったりなど、素敵な買い物ができる場に変身をいたします。私も、1時間か1時間半ほど行って楽しみたいと思いますけれども、5月3日と6月7日、一番のメインは11月なのでまたご案内をしたいと思います。

サンシャインシティがサブ会場となっておりまして、日頃は車がメインのところ、通行止めになり、子どもたちが全力で走れるようなさまざまなワークショップができる取り組みもあります。

二つ目は、「大塚バラ祭り」も5月3日から始まります。沿道に1,500m、都電の沿線を地元の方たちが、もう暑い日も寒い日も手入れをしていただいている結果、素敵なバラを毎年見させていただいております。710の品種、1210株のバラが楽しめますのでぜひお運びください。

そして「TACT FESTIVAL」。これ子どもから大人まで楽しめるとなっておりますが、特にお子さんにおすすめをいたします。踊ったり歌ったり飛んだり跳ねたりできるさ

さまざまなイベントを、ゴールデンウィーク中、東京都芸術劇場と豊島区が共催で実施をいたしますので、よろしくお願いします。

もう一つは、「池袋ジャズフェスティバル」です。池袋は音楽による、音楽のあふれるまちづくりを進めたいと思っております、芸術劇場やブリリアホールもありますので、素敵なホールでお行儀よく聞くのもいいと思いますが、まち中でリラックスして、歩いていたら、あちこちから音楽が流れて楽しいというようなまちを私は目指したいと思っております。その中で、もう一番大好きな「池袋ジャズフェスティバル」であります。

豊島区の中のさまざまな場所で、色々な音楽が聞けて本当に楽しいのでぜひ来てください。5月17日と18日で行いますので、外でやりますので、何を飲んでも、聞いていただいても構いません。本当に楽しいイベントとなっております。去年は4万7,000人の方に来ていただきました。ぜひお運びをいただければと思います。

私からは以上になります。

どうぞよろしくお願いいたします。

【質疑応答】

建通新聞

池袋駅西口地区の再開発についてですけれども、先日着工時期が当初の予定から3年遅れることになったと組合から報告がありまして、改めて着工が遅れることになった理由を教えていただきたいのと、区長として今回のことをどのように受け止めていらっしゃるのかをお聞かせ願いたいです。

高橋区長

はい、これは豊島区だけでなく、もうさまざまなところで大きな課題だと思えます。物価高騰のことで資材のこともあれば、働き方改革も加わって、人の確保が難しいなどなど、本当に大きな課題だと思っております。私の方も直接、3年程度変更になるということを聞きました。準備組合の方としては、今申し上げたような資材のことで人件費のこと、人の確保のことなどさまざまな建設業界の動向から、慎重に対応していかなきゃいけないということで検討しなきゃいけないこともあるわけだと思えます。なので、3年という事で考えたというふうに伺っております。それによって完成

の時期がどのぐらい遅れるのか、取り戻せるのかはわかりませんが、私たちとしてはもう都市計画決定も済んでおり、進んでいくというのをしっかり見守る立場でありますし、また必要な場面においては私たちも、例えば東京都、また国などにご支援をお願いする場面では区もしっかり準備組合と連携して、対応してまいりたいというように思っております。

新宿新聞

先程の建通新聞の質疑について補足的な質問です。

3年着工遅れということですが、完成についてはどのように今現在聞かれているのでしょうか。5年ぐらい遅れるという、情報もあるようなんですけど。

高際区長

私どもは着工のスタートが延びたので3年遅れますとか、状況があれなんで5年遅れますとか、完成時期がどうなるかということは、伺っておりません。

新宿新聞

続けて、今回、グリーン大通り沿いの南池袋二丁目28番街区地区の再開発関係の計画がありましたけど、私が記憶しているところでは、10年よりもっと前に、「ニッセイ池袋ビル」(2011年竣工)という、今回の再開発の向かい側に大きいビルが開発された時以来の大きい開発案件かなと思っているのですが、グリーン大通り沿いは、池袋の中でも非常にオフィス街というか、色々な金融関係のビルも入っているエリアで、この計画が公表されたことで、今後のことも含めて何か期待感みたいなことがありましたら教えてください。

高際区長

ここについて私が非常に期待しているのは、地上20階建ての建物ができるんですけども、貢献的なことも含めて、南池袋公園との一体化といいますか、公園の角にウツ

ドデッキがあるのですが、そういうところとも一体となった回遊性のある緑の綺麗なスペースにしていこうというようなご提案をいただいていたたり、回遊性の一つの拠点ですが、グリーン大通りを渡ってアニメイト通りに行くところも、ここの面として、少しアニメイト通りも綺麗にしようとか、いくつかご提案をいただいていることがあります。

IKEBUKURO LIVING LOOP がウォーカブルなまちづくりの私は良い例だと思っているのですが、気持ちよく歩ける、そして緑もあって、環境が良くて、歩きやすくて、というような回遊性を持ったウォーカブルなまちづくりを進めたいと思っていますので、今回いただいたご提案については、非常に期待をしているところがあります。

TOKYO MX

企業提案制度について確認ですけれども、こちらは区内の企業限定なのでしょうか。そして、この提案制度によって、こういった効果を期待しているのでしょうか。

高際区長

詳細は来月明らかにしますので、ちょっとお待ちください。

期待することは、産官学連携コンソーシアムのチームとしまが、すごい良いチームだと思っていて、色々な提案が出てきても、なかなか実現まではできないんですよ。

何でもかんでもチームとしまのメンバーだから、無料でやってください、と言うのもあるし、良い提案をそれは役所がやるよりその企業がやるのがベストだよねという提案があれば、実現に結びつけたいなと、チームとしまの企業や人たちと付き合っていて、ずっと思っていたんですね。それが実現できるかなっていうところは期待します。詳細は、来月また来てください。

TOKYO MX

今日の内容とはちょっと関係ないことなんですけれども、2023 年度の卒業アルバムのデータの漏洩について、豊島区の方も 10 校、717 名漏洩されているということなんで

すけども、この件について区長の見解をお伺いしたいです。

高際区長

4月18日にホームページで公表をしましたが、小学校10校、対象者717名、中学校はありませんでした。伺ったところだと、漏洩されたという事実は確認されていないのは、他の区とも同じなわけなんですけれども、やはりその対象者が1年前、令和5年度の子たちなので、報道で見て心配されていると思うでしょうから、学校を通じて、事業者からこういう状況です、こういうことです、としっかりした文書をいただいたものを、卒業校から対象者にお送りしようと思っています。

卒業アルバムは、学校や役所が作っているのではなく、PTAの方が中心に卒業アルバム委員会というところで企画をして、どんな内容にしようかな、どこに頼もうかなというふうにやっていらっしゃるの、私たちができるとしたら、やはり、どこに頼むかいうときに、情報管理がしっかりしている、セキュリティがどうかというところも確認をいただいて、発注してくださいと注意喚起はする必要があると思うんですけども、まずは、その心配になっていらっしゃる対象者に早くご案内は出そうと思っています。

東京新聞

不登校対策スーパーバイザーについて、こちら全国で初めてということなのですが、このポストを置く背景や狙いというそもそものところを教えていただければと思います。

高際区長

教育センター所長がいたら熱く語ると思いますが、予算のプレスのときに、不登校対策に力を入れていくと、こういう体制でやっていきます、というのを出しました。

予算のプレスの資料は、ホームページに掲載があるので、また見ていただければと思いますが、区立全中学校にスクールソーシャルワーカーを配置したり、学校にいけるけど教室には入れない子が行く、校内別室というのも、今年度から全中学校で始め

たり、不登校対策はさまざまな強化をしているんですけども、私たちなりに一生懸命やっていますが、対策をしている学校現場への指導や保護者の皆さまへのご助言など、それからもっともっとやらなければいけないことがあるのであればそうしたことを、専門家の目から私たちに力を欲しいということで、専門の方をお招きしたいと思っていたところです。

今年度、不登校対策の計画を作ります。今検討中ですが、その検討会のメンバーにも入っていただいている方で、教育センター長から「日本一不登校対策に力も入れて、思いのある方を引っ張りたい」という提案があって、色んなお話を聞く中で、この方にぜひということで、来ていただきました。

直接私もお話しをしましたが、まずはもう着任早々全学校回っていらっしゃいます。いろんな体制は整ってきているけれども、やっぱり人と人として対応してやっていらっしゃいますので、学校の先生たちは、学校側は何に困っているかということを今、徹底して聞いていただいているというような状況です。

朝日新聞

再開発について、西口の遅れで先ほどの区長からも南池袋の方ではウォーカブルなまちづくりで期待ができるという発言がありました。

西口でも池袋駅ターミナル駅の入口ということもあって回遊性を高めることに直結するんじゃないかと思われるんですけども、区が進めるウォーカブルなまちづくりの整備が遅れるということについての懸念というか想いと、これによって何か区が持ち出しが増えるとか、現時点で判明している直接的な影響っていうのは何かありますでしょうか？

高際区長

先程申し上げたように、どのくらい遅れるかというのは、わからない。組合自身も、3年でできると断言できないところがあるのではないかと思います。状況によっては取り戻すのかもしれませんが、どのくらい遅れるかというのはわかりません。ですが、多分、着工が3年遅れるので、予定よりは遅れると思います。

組合に参加されているまちの方たちも心配しているのは、10年20年遅れたら困

りますけども、1年、2年、3年遅れるということよりも、やはり、財政力大丈夫かという、ちゃんと必要なお金が、国からもらえて、予定通りのものがちゃんとできるかということを今心配されておりますね。

お話によると、当初の計画よりもいろいろ設計費・建築費などを節約するためかと思いますが、設計もいくつか見直したりというご努力もされているというふうに聞きました。そういう中でどのくらい遅れるかというのは、心配は心配ですが、まずはしっかり始められて、万が一でも途中で頓挫することがないように組合の方たちとも一緒に連携しながら、先程申し上げたように、東京都を通じて国にもしっかり要望することは要望していくというような状況です。

朝日新聞

工期というよりも、遅れることによって、工期の長期化によって区の負担が増たりとか、そういったところの試算とかというのはやられていますか。

高際区長

そういうことは現時点では考えていません。

朝日新聞

ありがとうございます。次が「小1の壁」対策なんですけども、すごくいい取り組みだなと思う一方で、利用があまり伸びていないんじゃないかっていう話も少し聞かれたりするんですけども、その要因と実際に利用が低迷したままであれば、続けていくことによって公務員さんを不要に拘束することにもなりかねませんし、その辺今の感触、どうお考えなのかというところをお聞かせいただいてもいいですか。

高際区長

朝と帰りがありますけどね、朝は確かに始めたときは、思ったより来なくてがっかりしちゃったんでね。そんなこともありましたけども、今はどうでしょう、担当課長

きておりますので課長から。

放課後対策課長

先ほど区長の発表がありました、登録は 168 名ですが、現在平均 1 週間ぐらい経って平均全校合わせて 35 名程度の利用になっております。

要因としましては、必ず保護者の方がお子さんをお預かり場所に連れてくることという条件にしておりますので、もしかしたらそこが保護者の方にとってはネックになっているかもしれません。

ただ、やはり朝早い時間ですので、その条件を外すとお子さんがお 1 人で迷子になってしまったりとか、事件事故に巻き込まれる可能性もありますので、その条件はできれば外したくないなという思いでございます。

また、今後についてはまだ 1 週間でありますので、もう少し様子を見て、改善すべきところありましたら改善していきたいというふうに考えております。

朝日新聞

場合によっては廃止ということもあり得るのでしょうか？

高際区長

朝は廃止というよりは、やり方を変えるかもしれませんね。というのは、早く来るのは別に小学校一年生だけじゃないということもあるのでね、様子を見て、2 年生と 3 年生であっても、早く来る子はいるし、あと、すごい寒い日、すごい暑い日あるので、そのやり方は考えたいと思っていますけど、ただ今はもう共働きの方もすごい多いですから、ご出勤するときに、子どもがなあ、と心配だという声は引き続き相変わらず聞いていますので、やり方が変わるかもしれませんが、実施をしていきたいと思っています。

羽田ゆきまさ報道局

若年女性支援について聞きたいんですけど、豊島区での事業の費用対効果とかチェックする体制とか、何人の方をどういう支援ができたとか、そういったところをどうやって確認するかとか、その考えを教えてください。

高際区長

豊島区が直接民間支援団体との関係で今現在お金が発生しているっていうのは居場所をつくっていて、ピッコラーレというところでぴこカフェっていう女の子の居場所を作っているところがあります。

そこはもう数年やっています、昨年度までは月に2回、今年度も少し場所も変わりますけどやっています、そこはいついつ何人どういう女の子が来て、こういう活動をし、お話をしたとかそういう報告は全部お受けをしております。

費用対効果をどう見るかっていうのはありますね。居場所なのでたくさんいらっしゃる時もあれば、5人6人ということもあって。5人6人の日は1人当たりのコスパ悪いんじゃないと思う人もいるかもしれないですが、やはり居場所というのはそこにあるから居場所であって、月1回でも2回でもそこに行くと、誰かがいて話を聞いてくれるというその継続性は必要だと思っているので、今居場所はやっていますが、実績についてはそんな形での把握をしているということでもあります。

羽田ゆきまさ報道局

ありがとうございます。それから不登校対策ということの関連なんですけども、不登校の一つの理由としては、いじめ問題があって、いじめられた子が、学校に通えなくなるということが日本だとかなり多いかなと思います。一つの要因として。

その対策というか、寝屋川市では、いじめ通報促進チラシを毎月配るとか、市長部局の監察課が教育委員会と別組織として、いじめを1ヶ月以内に終わらせるという強い決意でやっているっていうことが報道特集でも流されて話題になったかと思います。

豊島区でも区長部局にそういったいじめ対策の部署を作る考えなどありますか。

高際区長

豊島区は子どもレターと言って私に直接お手紙を書いてくれる仕組みもありますけども、1人1台タブレット、小学校・中学校も持って、そこに、アシスとしまっていて、子どもたちからいろいろ相談を受けるところがあるんですよね。

そこに直接つながるアシスとお話しというアイコンをタブレットに搭載をされていて、そこから何かあれば、なかなか子どもは電話で訴えるというのは難しいと思うんですけども、そのメールで相談員にこんなことがあったっていうのを直接届けられる仕組みを設けています。

そういうふうにできるだけ早く子どもたちのピンチっていうものに気づきたいなというふうに思っていてそんな対応をしています。

今現在、豊島区の区長部局、私のもとに何かいじめの、他の市でやっていらっしゃる対策部会でしたっけ。

羽田ゆきまさ報道局

監察課というところでいじめ通報促進チラシっていうのを子どもたちに毎月配って、いじめがあったらこれに書いて出してくださいとしている。それが届いたらもう1ヶ月以内にそのいじめは必ず止める、というような覚悟で6人の専属の職員が学校に入り込んで、問題解決のために強い対応をするという形です。それで、いじめている側を出席停止とか、クラス替とかそういったこともやりますよという、実際そこまではやっていないようですが、そこまでの強い覚悟を持っていじめ対策をするっていうことで実際に効果が出ているということらしいです。

そういったことをしない限り、先生に例えばいじめられているんだけど相談しても、先生はうちのクラスでいじめの問題が発覚したら自分の評価がとか、学校長だって学校の評価だとかということで、教育委員会側は隠すわけですね。

そういうようなことでいじめられた子どもが学校行けなくなって、いじめられた子がいなくなったからいじめが解決したってことになっちゃっていたと思うんですよね。そういう対策がこの寝屋川市の取り組みと思うんですけど、そこら辺やった方がいいんじゃないかなと。あと、いじめ通報促進チラシとほぼ同じものを年1回みたいですけど、品川区は配り始めているんですね。昨年度から。なので、同じようにやったらどうなのかなというふうなところです。

高際区長

いじめについては、教育委員会の方で、チラシだとかやっていたと思いますね。

頻度などは確認をしたいと思います。なので、まずは教育委員会を通じてあるいはさっき言った、区長部局にあります子どもの相談の部署にタブレットからもすぐにつながる、あるいは私に直接手紙が出せるというような、この仕組みで子どもたちの声をまずつかもうという取り組みをしていますので、今現在豊島区の私の部署で教育委員会と並行した何かそういういじめの組織を、対策の組織を作るという考えはないんですが、おっしゃる通り、不登校の理由の大きいところはいじめはあると思いますしさっき申し上げた専門のアドバイザーも来ましたし、そういうところで不登校の対策の一環の中で当然いじめのことというのを考えていかなきゃいけないと思いますので、どういうふうに強化していくか、必ずやはりいじめの対策の強化っていうのは、新体制のもとで進めていかなきゃいけないと思っていますのでいただいたお話も参考に考えたいと思います。

羽田ゆきまさ報道局

可能であれば来月とか、来月が早ければさ来月とかぐらいでもいいんですけど、いじめ対策をどうするかについて、ぜひ今回就任された方の話もこの会見で聞ければと思うんですけど。

高際区長

少なくともそのいじめ対策、何やっているのというのとか、確かにチラシをやはり定期的に配っているのかな、というのを確認して、現状こうやっていると、新体制でこういうところを力入れたいっていうのは、しっかり聞いておきます。

羽田ゆきまさ報道局

お願いします。あともう一つ交通事故から子どもを守る件なんですけども、調べた限り、豊島区ではキッズゾーンの設置はしてないのかなと思うんですけども、港区とか

もう4年前にキッズゾーン設置しているんですが、道路に1回塗装すれば1年限りの予算で済むんですけど、それ未だにやっていないのに今回の対策をやってというのは、先にキッズゾーンをやったらいいのになと思うんですけどキッズゾーンは組み込まないんですかね。

高際区長

キッズゾーンはすいません、今わかる者がおりませんので確認します。

羽田ゆきまさ報道局

キッズゾーンって保育園の子どもたちを保育士さんが道路を歩いて公園まで連れていく、その間で事故が起きるのを防ぐためにスクールゾーンと同じように、その保育園児が遊びに来る公園の近くの危ない道路のみ舗装でキッズゾーンというようにスクールゾーンみたいな塗装するっていうものなんですけど、それをやれば、結局そういう公園って小学校とか子どもたちも遊びに来るわけですよね。

キッズゾーンがあれば、その表示があれば、その交通事故の原因である車に対して、24時間人がついてなくても24時間一応警戒をさせる効果が一定あるものなので、それをなぜ港区とかもう既に4年もやっているのにやらないのかなというところでは。

高際区長

港区しかやってないんですか。豊島区くらいですかやっていないのって。

羽田ゆきまさ報道局

いや、港区以外も東京都では多分2つぐらいかあんまりそんなにやってない、進んでないんですが、大津市の子どもの事故あったじゃないですか。あれの対策で国がキッズゾーンやりなさいよって言っているのに、全然、港区はその通達あってからすぐにやったんですけど他が追いついてないのでそこで今回こういうことを言っているの

で、ぜひキッズゾーンやるべきじゃないかということで。

高際区長

今のお話だとそれはあった方がいいよねって思いますので状況を確認したい。

羽田ゆきまさ報道局

はい、よろしくお願いします。

広報課長

以上をもちまして、本日の区長記者会見を終了させていただきます。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

(テキスト版文責 政策経営部広報課)